

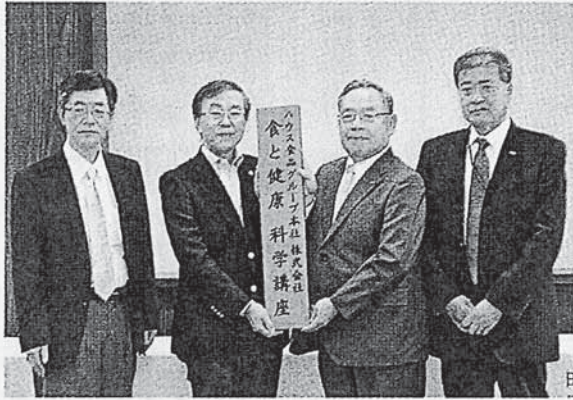
食と健康指標 関連解明

弘大とハウス食品が研究講座開設

高齢者の生活向上へ

弘前大学(佐藤敬学長)とハウス食品グループ(浦上博史社長)は共同研究講座「食と健康科学講座」を同大学院医学研究科に設置し、6日に開設式を行った。同大が10年以上上統ける「岩木健康増進プロジェクト」から得られるビッグデータを活用し、食生活とさまざまな健康指標との関連を解明する。超高齢社会の中で、創業100年以上の伝統を誇る大手食品メーカーが同大とともに、高齢者の虚弱状態といった社会的課題を踏まえ、エビデンスをもとに健康寿命延伸につながる食習慣や食のスタイルを提案していく。

(成田真由美)



ハウス食品グループ「食品メーカー」。「食健康長寿への貢献を国内内外で事業展開する健康」クオリティ企業指し、各製品ブランド「力」を維持・強化、「食で健康」という領域で新しい価値を消費者に提供し続けている。

研究講座では、高齢者をターゲット層に据え、2000項目から成る同大の健康ビッグデータと食事の在り方の関係を分析。これにより、元気な老後を過ごすために必要な新たな食事スタイルや食の

「食と健康科学講座」の看板掲げる(左から)若林副学長、佐藤学長、田口取締役、山本研究開発副本部長

環境について、食事という観点から生活の質(QOL)向上を模索していく。

講座は同大の中路重之特任教授、井原一成教授、沢田かほり助教、同社研究開発副本部長の山本佳弘特任助教で構成。期間は20

18年6月1日〜21年5月31日の3年間。開設式には、同社の田口昌男取締役、佐藤学長、若林孝一副学長、中路特任教授ら関係者が出席した。

佐藤学長は「弘前大学は地域活性化に貢献する大学。岩木健康増進プロジェクトという中」こを見てもない。弘前大学と一緒に解析する機会が一番の魅力。と評価し、幅広い食生活を提案・提供できる立場から「新たな切り口で高齢社会におけるニーズ、それに対応できるものを解明し、健康増進に役立つ食事、食生活を提案したい。社会の役に立てよう成果を出していきたい」と研究に意欲を示した。同大に開設された共同研究講座は今回で9例目となる。

田口取締役は「岩木地区で蓄積された健康に関するデータは世界

進プロジェクトという中」こを見てもない。弘前大学と一緒に解析する機会が一番の魅力。と評価し、幅広い食生活を提案・提供できる立場から「新たな切り口で高齢社会におけるニーズ、それに対応できるものを解明し、健康増進に役立つ食事、食生活を提案したい。社会の役に立てよう成果を出していきたい」と研究に意欲を示した。同大に開設された共同研究講座は今回で9例目となる。